Vol.．280　極点社会を生き残るために
～改めてホームコミュニティのすすめ～　（平成 26 年 5 月 25 日）

今、私達を取り巻く日本の社会には、孤立社会、限界社会、買物難民、極点社会と言う私達が想像してもみなかった社会が出現し、このままですと次は消滅社会と言う社会が生まれるのではと懸念されてなりません。

先日ある大手研究所の若い主席エコノミストの講演の後、私が「このまま大型店の地方進出を無策にすすめて行ったらどうなりますか？」と聞くと「数年後大手のほとんどが撤退するでしょう･･･」と。「それなら地場産業は残りますか？」と追いかけて聞きますと「その頃には地場産業は消滅して無くなっています。多分、街そのものも無くなっております」と言う。

私は心の中でこれが極点社会なのかと思って聞いていました。この現象は、少子高齢化だけではなくて経済成長は既に限界点にあるのに、弱者の市場を強者が奪い取る市場経済が続いているからであります。

市場経済によって生まれる社会は、韓国、中国、中近東、アメリカの様に一握りの強者による経済格差社会であります。格差社会の怖さは、町や村の伝統、秩序を守ってきた商店街を消滅させ、家族や近隣市民の働く場所を奪い、不平不満や町の荒廃が治安を悪化させております。

人の社会は何千年？何万年前から家族、部落（むら）と言う群れを作り、大家族で住む集落毎によって、働ける者は働き、年老いた人、病む人達は部落（むら）の人達が面倒みて･･･人間が共に生き残って行ける仕組みを作ったから人は萬物の霊長として今日まで栄えて来られたのだと私は思っております。

私達は先人達が作り上げて来られた「大家族主義」を取り戻す良き機会だと思っております。不確かな財を蓄えて余生を悩むよりも、安心して余生を託せる家族、隣人を選ぶ時だと気付き、道を変えるべきであります。

先日私達の仲間の女性が亡くなりました。
ご主人は重症で入院中でしたので、途方に暮れた息子さんは密葬されると聞き、私達からお願いをして葬儀をさせて頂きました。多くの仲間、隣人達が集まって下さり、生前の故人にふさわしい通夜葬儀となりました。

この仲間達は今から３０年程前「これから老後へ向かっていく山坂共に助け合って生きて行こう」と坂田の地名に因んで「坂の会」と名付けられた仲間達であります。
以来毎月例会を休みなく続けて、助け合いの絆を太く致して参りました。

この会を親会として「坂田歌の里（会員５０名）」「坂田焼き物小屋（１０名）」「坂田落書き（絵手紙）仲間（８名）」等が生まれ、昨年からは私の様な無芸の者が「坂田呑んべ会　毎月２回・会費５００円（会員十数名）」の集まりも始まりました。私の家は広く使いやすいからと人が集まって参ります。

行政も社会保障は既に限界であります。

日本人は素晴らしい民族ですから、今の難問題は必ず解決するでしょうが、しばらく時間がかかります。

それまでは私達地元の経済人で、この素晴らしい君津を守って行きたいものです。

人が集まり、安らぎを育てるホームコミュニティーを街中にいっぱい作って下さい。核家族ではもう日本の家族は支えられなくなったからであります。

〈お知らせ〉
皆様お馴染みの『アド街ック天国』に君津市特集が放映されます。
※テレビ東京（7ch）放送日:平成２６年６月１４日（土）夜９時より　是非ご覧下さい！